資料４

「道内の感染状況等（道案）」等に対する主な意見

１　有識者・専門家の意見

１－①
医療提供体制、感染状況に関する認識に概ね異論はなく、社会経済活動への影響も考慮して重点措置を延長しないとの判断は了とする。
新規感染者が減少傾向にあるとは言え、今後も相当数の自宅療養者が見込まれることから、引き続き的確な医療管理下に置かれるよう、体制強化を図って頂きたい。
年代別新規感染者のうち、30代以下は楽観できない現状にあり、ワクチン接種を含めて、学校や職場、飲食店における感染防止行動の徹底を呼びかけて頂きたい。

１－②
道案に異論なし。
引き続き、多くの新規感染者が確認されていることから、社会機能の維持に向けて、自主的な検査を含め、円滑に検査が受けられるような体制・資材の確保に努めるとともに、道民や事業者への周知をお願いしたい。

１－③
まん延防止等重点措置について延長しない道案に異論なし。
ただし、今後の対策にあるように、これまでのように感染防止行動の徹底を図ること、３回目のワクチン接種の促進、小児ワクチン接種促進を図ることを道民に強く発信していただきたい。

１－④
まん延防止等重点措置の適用を終了しても、大人数での会食はできるだけ避け、飲食の際の会話時はマスクを着用すること、三密を回避するなどの感染防止対策は引き続き徹底するよう、道としてしっかり取り組んでいただきたい。
また、感染が再拡大が見られた場合には、速やかに強い感染対策等を講じるように取り組んでいただきたい。

１－⑤
札幌市以外で特に若年者の新規陽性者数が下げ止まっているように見える。今回、重点措置を終了することは全国的な流れとして致し方ないことだが、年度末・年度始めにかけて、特に若い方の移動が活発になると考えられるため、より感染しやすく潜伏期間も短い可能性が指摘されているBA.2系統への置き換わりも言われている中、体調に不安がある場合の迅速な検査体制と結果が判明するまでは出歩かないことの周知徹底が重要と思われる。

１－⑥
道案に異論なし。
感染対策の重要性を引き続き道民にPRしていただきたい。

１－⑦
道案に異論なし。
学校、園での子の感染を通じた家族への感染の広がりが見られ、保育教育の場面における感染対策について、これまでの延長線上ではないさらなる検討が必要ではないか。
また、学級閉鎖や欠席時のオンライン授業体制が学校によって異なるようであり、実質的授業を行えていない学校においては水準向上できるよう道として支援、指導が必要と考える。

１－⑧
新規感染者数が徐々に減少し、病床使用率も低下しているため、3月21日のまん延防止等重点措置の解除は異論なし。
３回目のワクチン接種も順調に進んでいると思われる。
ただし、会食について、「可能な限り大人数での会食は避ける」という一文を入れても良いのではないか。

１－⑨
道案に対し異存ありません。
３回目接種の接種率が低いため、引き続き周知をお願いしたい。

２　市町村・関係団体の意見

２－①
飲食店、宿泊関係、運輸関係の経営は、２回の延長で非常に厳しい状況にあることから、今回、まん延防止重点措置のさらなる延長の要請をしないという方針に異論はない。
教育現場をはじめ、若年者層を中心とした感染対策を重点的に講ずるべきと考える。
また、医療・介護施設、コールセンターなど、クラスター発生が頻発した施設・業種への対策強化もお願いしたい。
第7波への備えとして、BA.2への対応を強化する上でも、ワクチン３回目接種を急いでいただきたい。

２－②
飲食の際には、利用客自らがマスク会食や黙食など感染を防止するための必要な対策を講じるよう道としてしっかり取り組むべきである。
また、感染者が再拡大した場合は、躊躇なく強い対策に取り組んでいただきたい。